

平成28年度宮崎県立図書館評価表

NO	目標	評価項目	評価指標	自 己 評 価		外 部 評 価		備 考
				評価	説 明	評価	意 見	
1	県の情報拠点としての図書館	県下全域での図書館サービスの推進	県内の公立図書館における図書貸出総数(県、市町村等)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●県立図書館貸出総数、市町村立図書館の貸出数とも、前年度に比べて減少したが、直近5か年の平均は上回った。 ●県立図書館貸出総数については、宮崎市以外の減少が多く、今後は、マイラインサービス等を活用した全県的な読書振興の取組が必要であり、特に市町村立図書館(室)や県立学校と連携し、ネットワークの充実を図る必要がある。 	C	<p>《マイラインサービス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マイラインサービスは利用者からも市町村立図書館の職員からも好評であり、全県的な読書振興のため今後も継続する必要がある。 なお、毎日発送を開始したにもかかわらず利用実績の伸び率が低いので、継続的・効果的な周知に取り組んでほしい。 <p>《読書の振興》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校図書館などで、子どもが小さい頃から読書習慣を身に付けるような取組が必要である。県立図書館も、読書の意義や大切さを訴えかける取組が必要である。また、県立学校との連携・支援を強化する必要がある。 ●10代～20代及び40代～50代の人々の利用が減少傾向にあるとのことなので、要因を分析し対策を講じる必要がある。 ●青少年コーナー(わかば)は、若い人にもっと訴えかける工夫が必要である。また、その時々話題に応じたコーナーを作るなどの工夫も必要である。 <p>《閲覧室等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●閲覧室に入ってすぐのところは図書館の「顔」に当たる部分なので、ターゲットをどうするかを考えた配置など工夫が必要である。 ●グループで議論しながら研究する利用者に対して別室を用意するなどできないか。 ●高校生等の利用促進を図るため、現行の休館日(原則月曜日)を変更できないか。 <p>《資料収集》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県立図書館の役割として、市町村立図書館(室)では購入しにくい専門書の充実を図る必要がある。また、電子書籍への対応をどうするかについても検討する必要があるのではないかな。 <p>《ギャラリー展》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ギャラリー展のテーマ数が過去最高に達したことは評価できるが、発信力の向上が課題であり、展示に当たっての工夫が必要である。来館者を引きつけ効果を高めるには、展示を行う担当部局に対し県立図書館からアドバイスを行うことも必要である。 	
		県立図書館としての多様な資料の収集・保存	分性別受入数及び構成比	B	<ul style="list-style-type: none"> ●単年度事業によるへき地校や図書館未設置市町村の支援に向けた図書購入費が措置されたことにより9門の受入が前年より多くなったが、各部門のバランスを考慮した選書に努めた。 ●今後とも3、9門の抑制に努め、ビジネス支援等につながる4、5、6門の強化を図る必要がある。また、部門対応とは別に、市町村支援や子どもの読書活動振興などに配慮した整備を行う必要もある。 			
		情報拠点としての広範な情報の発信	行政等に関する情報発信の実施状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年4月に公式のフェイスブックページを立ち上げ、初年度から6万件を超える記事閲覧件数となり、情報発信の拡充につながった。 ●行政情報発信のギャラリー展については、テーマ数が過去最高の68件に達した。そのような中で、情報発信として弱い展示もあるため、担当部局に要請して内容の充実を図るとともに、実施件数を厳選する必要がある。 			

NO	目標	評価項目	評価指標	自己評価		外部評価		備考
				評価	説明	評価	意見	
2	図書館のための図書館	職員(県、市町村)の資質向上のための研修・支援等	図書館職員に対する研修、市町村職員への指導・助言等の実施状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ●県立図書館職員に対する研修は、館内研修、司書講習及び専門研修派遣により、資質の向上を図った。また、市町村立図書館(室)職員の資質向上を図るための研修についても、内容の充実に努めた。 ●今後とも、市町村立図書館(室)の職員とともに常に資質の向上を図り、利用者の多様なニーズに対応できる専門性の高い情報サービス提供に努めていく必要がある。 ●平成28年度からやまびこ文庫対象町村に年3回、その他の市町村に年1回の定期訪問、またそれ以外に依頼によって訪問支援を行う要請訪問を実施した。 ●研修についてはさらに充実させ、幅広い視野と知識、ネットワークを有する専門的人財の中長期的な育成・確保に努める必要がある。また、アドバイザー派遣や訪問支援については、要請内容によって職員がチームを作って対応するなど、効果的な支援を行う必要がある。 	B	<p>《図書館職員の資質向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書館職員の資質向上を図る上で研修や司書資格取得の取組などは非常に重要である。県立図書館には、市町村立図書館(室)に対する支援の充実に努めるため、中長期的な人材育成を含め、「図書館のための図書館」としての機能強化を求めたい。 <p>《マイラインサービス(再掲)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マイラインサービスは利用者からも市町村立図書館の職員からも好評であり、全県的な読書振興のため今後も継続する必要がある。なお、毎日発送を開始したにもかかわらず利用実績の伸び率が低いので、継続的・効果的な周知に取り組んでほしい。(再掲) <p>《移動書庫》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童クラブで移動書庫(BM書庫)の図書を利用しているが、新しい本を入れてもらえない。 	
		市町村等への資料提供・流通支援	市町村立図書館等への図書貸出冊数		C		<ul style="list-style-type: none"> ●マイラインサービスを毎日発送に改善したことにより、全県的な読書環境の向上を図ることができた。 ●今後は、市町村立図書館(室)や県立学校との連携をさらに強化するとともに、県民への周知も積極的に行う必要がある。 	
3	豊かな暮らしに役立つ図書館	県民の豊かな生活の実現のための各種講座、展示会、視聴覚事業等の推進	生涯学習のための各種講座、展示会、視聴覚事業等の実施状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ●語り部の発表等の場として平成28年度に初めて「語り部のつどい」を開催し、語り部の資質向上や県民に対して宮崎の言語文化を継承しようとする気運醸成を図った。 ●今後とも、市町村との連携を図りながら、さらなる広報や展示会での展示内容の説明等の分かりやすいサービスに努めるなどして、より多くの県民の参加が得られるよう実施していく必要がある。 	B	<p>《語り部の活用》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●語り部となられた方々には、平成32年度に本県で開催される国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭で活躍してほしい。 <p>《各種講座》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各種講座については、内容、回数とも、よく頑張ってもらって取り組んでいただいている。今後更なる講座の充実に努めてほしい。 <p>《マイラインサービス(再掲)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マイラインサービスは利用者からも市町村立図書館の職員からも好評であり、全県的な読書振興のため今後も継続する必要がある。なお、毎日発送を開始したにもかかわらず利用実績の伸び率が低いので、継続的・効果的な周知に取り組んでほしい。(再掲) <p>《障がい者サービス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者サービスの利用促進のために、市町村立図書館(室)との連携を強化するとともに、継続的・効果的に周知に取り組んでほしい。 	
		遠隔地をはじめ読書環境の十分でない方への図書配送等	読書環境が十分でない町立図書館、学校、障がい者等への資料貸出状況		C		<ul style="list-style-type: none"> ●マイラインサービスを毎日発送に改善したことにより、全県的な読書環境の向上を図ることができた。今後は、市町村立図書館(室)や県立学校との連携をさらに強化するとともに、県民への周知も積極的に行う必要がある。(再掲) ●障がい者サービスについては、登録者、貸出冊数ともに増加したが、必ずしも十分に利用されているとは言えない状況にあり、さらなる周知・広報が必要である。 	

NO	目標	評価項目	評価指標	自己評価		外部評価		備考
				評価	説明	評価	意見	
4	県民や地域の課題解決を支援する図書館	レファレンスサービスの充実	レファレンスの実施状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館協同データベースに登録すべき事例の掘り起こしを行った。今後とも、適正かつ迅速なレファレンスに資するよう、登録数の増加を図る必要がある。 ●市町村のレファレンス機能向上を支援してデータベース登録数の増加を図るなど、県民の課題解決の促進を図る。 ●国立国会図書館職員を講師として「レファレンス協同データベースの利活用」についての研修を実施した。今後とも、市町村支援にも貢献できるようなテーマ選定などを行う必要がある。 	B	<p>《レファレンス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●課題解決を支援する図書館として、隠れた需要に対応するためにも、レファレンス機能の更なる充実・向上に努めてほしい。 ●レファレンスに携わる職員の資質向上のため、研修会の充実にさらに努めてほしい。 ●レファレンスの実施状況に関する評価指標がデータベース登録数及び研修の実施回数となっているが、窓口や電話、メール等での受付件数や分野別の統計・分析もあってよいと考える。 	
		各種相談・専門機関との連携推進	各種相談事業の実施状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関とのネットワークにより、計画どおりに実施した。 ●利用者の少ない相談事業があることから、当該関係機関と連携し、時代のニーズを踏まえながら、より充実した事業の展開を図る必要がある。 			
5	郷土の文化を大切にしている図書館	郷土資料の充実・活用	郷土資料の受入・整理の状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ●資料の受入数は前年度を上回り、自主刊行資料の作成は、例年通りのペースで実施した。 ●デジタルアーカイブについては、デジタル化した史資料をホームページで公開した。 ●今後、資料の収集、受入れについては、テーマやターゲットを定めて計画的な収集を継続していく必要がある。 	B	<p>《郷土資料のデジタル化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●郷土資料のデジタル化は、長期的にも全国的にも大きな意義があるので、積極的に推進してほしい。 <p>《資料の収集》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●牧水の出身県にふさわしい短歌に関する資料など、本県の特徴を生かした収集に努めてほしい。 ●県立図書館にあれば本県の歴史は調べられる！という方針で今後も収集に当たってほしい。 ●今後も引き続き資料の充実に努めてほしい。 <p>《語り部の活用(再掲)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●語り部となられた方々には、平成32年度に本県で開催される国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭で活躍してほしい。(再掲) <p>《言語文化のアピール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今まで本県の言語文化に関心を持っていなかった人々へのアピールも必要である。 <p>《郷土に関する講座》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●親子を対象とした講座や、県民の関心に応える講座を実施してほしい。 	
		県民が言語文化に親しむ機会の提供	郷土に関する講座、展示会等の実施状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ●語り部の発表等の場として平成28年度に初めて「語り部のつどい」を開催し、語り部の資質向上や県民に対して宮崎の言語文化を継承しようとする気運醸成を図った。(再掲) ●今後とも、市町村との連携を図りながら、さらなる広報や展示会での展示内容の説明等の分かりやすいサービスに努めるなどして、より多くの県民の参加が得られるよう実施していく必要がある。(再掲) 			

NO	目標	評価項目	評価指標	自己評価		外部評価		備考
				評価	説明	評価	意見	
6	成長・発展する図書館	職員の資質向上のための研修・情報収集	職員研修等の実施状況(講習会派遣、研修会実施)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●県立図書館職員に対する研修は、館内研修、司書講習及び専門研修派遣により、資質の向上を図った。また、市町村立図書館(室)職員の資質向上を図るための研修についても、内容の充実に努めた。(再掲) ●今後とも、市町村立図書館(室)の職員とともに常に資質の向上を図り、利用者の多様なニーズに対応できる専門性の高い情報サービス提供に努めていく必要がある。(再掲) 	B	<p>《人材育成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書館ビジョンには、職員の資質向上に向けた10年先を見通した人材育成を入れ込んでほしい。そしてそのためのアクションプランの作成をお願いしたい。 ●中長期的視点で専門的人材を育成してほしい。 <p>《業務改善等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予算等については厳しい面もあると思うが、工夫して業務改善等に取り組んでほしい。 	
		図書館サービスの点検・評価を踏まえた業務改善への取組	図書館協議会の実施状況、業務改善状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ●マイラインサービスの毎日発送、やまびこ文庫など、新たな取組を開始し、全県的な読書環境の向上を図った。マイラインサービスについては、県民への周知と、配送先拡大に向けた取組が必要である。(再掲) ●平成28年4月に公式のフェイスブックページを立ち上げ、初年度から6万件を超える記事閲覧件数となり、情報発信の拡充につながった。 ●図書館評価について「試行」を作成し図書館協議会に報告した。また、図書館ビジョン懇談会による提言を図書館協議会に報告した。平成29年度は、図書館評価を実施するとともに、図書館ビジョン及びアクションプランを策定し、今後の方向性を示すことによってさらなる業務改善に取り組む必要がある。 ●避難訓練や避難マニュアルの見直しを行った。今後とも、繰り返し研修や訓練を行っていく必要がある。 ●施設・設備の改修の必要性を洗い出し、営繕工事計画の見直しを行った。厳しい財政状況の中ではあるが、特に、大規模改修について、計画的な対応が必要である。 ●図書館情報システムは、平成31年度が更新時期となるため、図書館ネットワークを視野に入れた処理能力の向上と機能拡充を図り、信頼性が高く便利で使いやすいものにする必要がある。 			

(注)「評価」のA、B、C、Dの内容は右表のとおり。

評価	評価基準の内容	
A	非常に良好である	取組や活動が非常に優れ、成果が出ている。
B	良好である	取組や活動が良好であり、目標が達成され、一定の成果が出ている。
C	やや不十分である	取組や活動がやや不十分で改善すべきところがあり、さらなる成果が求められる。
D	不十分である	取組や活動、成果が不十分であり、計画の見直し・改善が必要である。